

sje2019

担当教員：佐野彰

表のテーマ：スマホアプリを作る

iOS/iPhone & iPadあるいはAndroidなどの自分のスマホ上で動作するアプリケーションの制作を目指します。

これまでの演習でやっていたプログラミングと何が違いますか？

Xcode/iOS/Android Studio/Androidといった統合環境を利用してプログラミングを行います。ボタンなどのユーザーインターフェイスをGUIで設計することもできます。

利用するプログラミング言語は何ですか？

iOSではSwift/AndroidではKotlinという新しいプログラミング言語を使います。C言語やJavaでのプログラミング経験があれば難しいものではありません。最近のプログラミング言語なので、いろいろと便利になっています。

iOSとAndroidは両方使うのですか？

個々の参加者の趣向に合わせてどちらか一方を選択してもらおうと考えています。ただし、両方を並行してやると学習効率が悪いことも確かなので、参加者の分布によってはどちらかに統一して実施する可能性もあります。

どんなふうに演習を進めていきますか？

iOSやAndroidのプログラム開発環境を整備するところから始めます。前半は主に参考書やオンライン上のサンプルプログラムなどを自分で探してきて輪講形式（順番に一つのテーマを他の参加者に説明する）でスマホ制作の基礎を勉強します。毎回の輪講を通じて、自分の作りたいアプリのイメージを少しずつ具体化して下さい。自分が制作したいアプリのイメージに応じて、必要な機能（たとえば、カメラ撮影やBLE通信など）の実装方法を輪講のテーマとします。

前後半の間に、各自どんなアプリを制作するか、設計案の発表する場を設けます。また、時間が許せば適当なタイミングでLaTeXなどをやることもあります。

後半は、各自でのアプリ制作が主となります。アプリの完成には目標に応じてセミナー外での勉強や作業が必要となるでしょう。したがって、後半のセミナーは進捗状況の報告と問題点を解決するための時間とするつもりです。最終回には、各自の制作したアプリを他研究室との合同発表会で発表します。

裏のテーマ

上記とは異なるテーマでの活動を歓迎します。興味のある方はさのと話をして下さい。

- IoTやスマホアプリを使って、役に立つアプリ開発を学生グループとして進める（「安否確認アプリ」、「講義出欠自動化アプリ」、「龍谷祭等でのスタンプラリーアプリ」「TAチャットボット」など）。
- 持ち込みテーマを歓迎します。こんなことをやりたいという具体的な内容があれば相談して下さい。

- インテリジェントなシステムを創る。人間の認知過程（とくに、学習や発達）に興味のある人は楽しめるかもしれません。たとえば、お掃除ロボットの行動をプログラミングしてみたり、ニューラルネットワークについて勉強してみたり、チャットボットや学習発達するロボットを育ててみたり...

連絡先など

- 配属希望者は必ず面談に来て、希望テーマや内容をさのに伝えてください。希望してなくても来室は歓迎します。
- 佐野は 1-508 に居ることが多いです。電子メール(sano@math.ryukoku.ac.jp)でアポイントメントを取ると確実です。
- <http://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/>

過去の説明会資料

- [2018](#)
- [2016](#)
- [2015](#)
- [2014](#)
- [2013](#)
- [2012](#)
- [2011](#)
- [2010](#)
- [2009](#)
- [2008](#)
- [2007](#)
- [2006](#)
- [sje2004.pdf](#)
- [sje2003.pdf](#)
- [sje2002.pdf](#)
- [sje2001.pdf](#)
- [sje2000.pdf](#)

From:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/> - **www-slab.math**

Permanent link:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/lecture/sje/guide/2019>

Last update: **2019/06/11 13:16**

